

# KU Wandervogel

名峰白山  
南竜ヶ馬場

2016年  
7/26~7/28

俺たちや 徘徊老人ではない  
山を楽しむハイカーだ



2016.7.28  
at 南竜ヶ馬場

## 参加者全員 70歳を越えた

俺たち全員はとうとう70歳を越えた。  
半世紀前は、山々を若々しく歩きまわ  
る KUWV の部員だった。今や、平坦な  
舗装道路のウォーキング中にも転んで  
医者通いをするものもある。参加者の集  
合写真(上)を見ても、若さはどこにも  
感じられない高齢者パーティーだ。

そんな彼らが、なぜ白山・南竜に毎年  
集まるのかな。白山は、そんなに魅力的  
な山なのかな。

白山の魅力というよりは、半世紀前に  
一緒に遊んで学んだアイツらに会いた  
いからだ。今年も会えた。うれしい。

## 参加者 12名

(敬称略 順不同)

- ① 合津 尚 6期
- ② 山村 嘉一 8期
- ③ 伊豫 欣二 8期
- ④ 穴田 昭一 8期
- ⑤ 篠島 益夫 8期
- ⑥ 黒崎 史平 8期
- ⑦ 高水 間淑子 8期
- ⑧ 伊藤 俊成 9期  
(今回PWの幹事長)
- ⑨ 白井 勇 9期
- ⑩ 山中 重夫 9期
- ⑪ 保田 敦 9期
- ⑫ 鍋島 武 9期

## 行程概略

7月26日(火) 雨

別当出合→南竜ヶ馬場  
(砂防新道経由)

個々に南竜に向かう

7月27日(水) 曇

(自由行動)

- ① 別山往復 2名
- ② 植物観察 2名
- ③ 室堂往復 8名

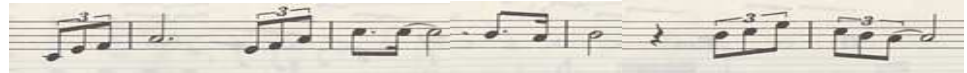
7月28日(木) 晴

南竜ヶ馬場→別当出合  
(砂防新道経由)

全員一緒に下山

## 第1日目

## 白山は今日も雨だった



あーあ はくさ んはー きょう も あめー だったー

## 北陸の梅雨は明けた 夏本番だ

『梅雨明けも宣言された。今年の南竜 PW の天気は良いぞ』  
『展望コースで、北アルプスから上がるご来光も楽しめるぞ』  
『今年の夏山第一弾はついているぞ』

ニコニコ顔で、ワクワクする心持を抑えながら、ザックに装備・食料を詰める。

## 白山は強い雨で KUWV・OB を出迎えた

だが、現実には、例年の南竜 PW のように雨。しかも土砂降りだ。砂防新道からみる不動滝にはものすごい量の濁流だ。怖い感じだ。

『梅雨明け 10 日間は好天』の理論は嘘なのか。

その雨の中、参加者それぞれが、登山口の別当出合から砂防新道経由で、南竜ヶ馬場に向かった。

**グループ A**：伊藤俊成 保田敦

金沢育ちのイケメン爺さん。故郷金沢に前泊して、保田車で別当出合へ。ゆっくり確実に歩こうということで、山歩きの原則『早立ち・早着き』を実践した。

**単独行 1**：伊豫欣二

体力、気力は抜群。KUWV・OB の田中陽希だ。コースタイム並みに歩いて南竜に到着。

そこからがすごい。(囲み記事参照)

**単独行 2**：白井勇

三重の自宅から別当出合まで、マイカーでの長距離運転だ。まだまだ老けこむことなく、南竜 PW に参加。堅実な足取りで、甚之助、南竜ヶ馬場へと進む。意外に歩けるぞ…と自信を持ったのではないのでしょうか。

**グループ B**：合津尚 山村嘉一 山中重夫  
穴田昭一 黒崎史平 鍋島武

早朝に金沢についた合津さん、山中さん兩名を、山村さんが車でピックアップして、別当出合へ。一方、穴田さんと穴田家に前泊した黒崎さん、鍋島の 3 名が、穴田さんのドライブで別当出合へ。山村車、穴田車がほぼ同時刻に別当出合に到着。

合流した 6 名が、砂防新道を歩く。高齢者の 6 名だが意外に元気だ。6 名の隊列は乱れることもなく、南竜ケビンへ。

## この南竜 PW の特徴

南竜のケビンに宿泊することだけが決め事。それ以外の行動は自由。自分の気持ちと責任で行動。

- ① 初日の集合場所は南竜。登山口の別当出合での集合はなし。勝手に南竜まで行く。
- ② 2 日目のワンデリングもそれぞれの企画で OK。
- ③ 下山も各自勝手に。(別れがたくなるので、下山は一緒の場合が一般的かな)



オタカラコウ

## 体力・気力だけではなく 優しさも

集合地の南竜に到着後、荷物を置いて甚之助小屋まで戻った。後から来る B グループ 6 名を出迎えるためだ。そして 6 名が甚之助小屋に到着すると、6 名の中で最も重いと思われる合津さんのザックを背負って、目的地の南竜に先行出発。

体力や気力だけではこんなことはできぬ。どんなに疲れても、人に尽くす優しさを持ち合わせている。

その男の名は、伊豫欣二。



**グループ C**：高水間淑子 篠島益夫

篠島さんのマイカーで、関西から別当出合へ。山に同行することも多い二人なので、雨であれ遅い出発であれ、恐れるものはない。着実な足取りで南竜に向かう。

その二人の到着を心待ちにして南竜山荘で待機する YA さん。二人は、南竜山荘に寄らず、南竜ケビンに直行。YA さんの心使いも大きな空振りに、無念。



しっかりした雨対策で、別当出合を出発

## 雨にも負けず 南竜に 12名全員 無事集合

強烈な雨だが、予定の 12 名全員が南竜ケビンに集合できた。馴染みのあるコースでもあるが、みんなに会いたいという意欲が後押しした結果でしょう。

集合後、積もる話に盛り上がるのは、例年の通りだ。(話題の内容については別項参照)



1年ぶりの再会に乾杯!

宿泊は南竜ケビンだが、食事は近接の南竜山荘だ。

## 大臣を育てた教育者

授業中に、先生の話も聞かずに眠ってしまう生徒たち。その生徒たちを相手に、教師魂をぶっつけ、情熱的な教育を実践。

その生徒たちは期待に応じて、社会人になっても大活躍。その一人は大臣にまで上り詰めた。だがこの生徒もどこで間違ったのか、パンツ大臣の汚名も。

その情熱的女性教師の名は、高水間淑子。

## 第 2 日目

## 天気もやや回復傾向 それぞれワンデリングだ

### ご来光組

奇跡の天候回復を祈って、午前 3 時過ぎに起床。南竜ヶ馬場は濃いガスの中。このまま展望コースのアルプス展望台に向かっても、『ご来光』の見込みは全くなし。再び寝ることに。(決断の速さは結構だが、心中で、悪天を歓迎していたのかも)

### 別山組

篠島さんと山中さん。

このお二人は、日本百名山完全登頂者であり、今なお国内・海外の山を積極的に歩き回っている。また一緒にパーティーを組むことも多々。

この二人は、この程度の天候で、予定変更をする気は一切なさそう。篠島さんが、朝早く山中さんに「起きるぞ」と起床ラッ



パの声をかける。(山中評によれば、篠島さんは、一度決めたら、そう簡単に変更しない…意志の強いタイプ)

午前7時前には、別山に向けて、出発。別山頂上までワンデリングをして、南竜ケビンに戻ったのは、午後4時半ごろ。山中さんは汗びっしょりで、二人とも満足気の様子。



クモニガナ



チングルマ

**室堂組**

別山組が出発した後も、南竜の天気は相変わらずの状態。全体のムードは、昨年同様、沈殿ムード。『しょうがないな。酒でも飲んでだべろうか』。

午前8時半前後か、なんとなく空が明るくなってきた。「せめて室堂まで行こうぜ」の声に反応した男は、合津さん、山村さん、伊豫さん、穴田さん、伊藤さん、白井さん、保田さん、鍋島の8名。決めたら行動は速い。9時には南竜を出発、エコーライン経由で室堂を目指す。エコ

**直近でもヨーロッパアルプスを堪能**

この南竜 PW の連絡を互いに取り交わすメールの中に、次の内容のメールがあった。

『わたしも先日イタリア、オーストリア、ドイツのアルプス展望の旅から戻ったばかり』

南竜で、この方とその旅の話をする時間がなかったのが残念。もしかしたら、ドロミテ、コルティナ、グロスグロックナー、ツグスピッツ…等の旅かな。

今なお、海外にも旅する積極派の山男の名は、篠島益夫。

ーラインの入り口でオコジョに激励され、弥陀ヶ原を気持ちよく歩き、五葉坂でアゴを出し、何とか室堂に到着。

「室堂まで来たのだから、俺は御前峰まで行ってくるよ」という男は一人も現れず。団体行動の規律を遵守する良識派か、これが限界の高齢登山者ばかりなのか。

帰りは、アルプス展望経由。展望台からの急斜面周辺のお花畑は印象的だ。素晴らしい。



**オコジョに激励される**

南竜道からエコーラインに分岐する場所での休憩中、我らの足元付近を、オコジョがチョコチョコ走り回る。我らに何の警戒心も持たない。

「ここから急登が始まるよ。高齢だろうけれど、頑張れ」と言っているようだ。かわいいね。



**室堂でくつろぐシルバーエイジ**

少々お疲れかな。

赤シャツの男性は、現地で会った穴田さんの知人。後方の白山比咩神社の祈祷殿の建築に携わる宮大工さん。



生物探求組

黒崎さんと高水間さん。

二人の学生時代の専攻は生物学。今なお、生物への探求心のレベルは高い。今日も、南竜、油坂から天池へと、生物研究のワンデリングだ。

南竜付近の半世紀前（学生時代）の植生と今の違い、外来植物の現況…等について、研究しているのかな。

この二人は、翌朝も南竜の植物を採って、研究をしている様子だった。（学生時代に何を勉強したかも記憶にない小生にとっては、尊敬しちゃうな）



## 45年振り 知人女性を訪問

45年も前に、南竜で仕事の関連でお会いした女性がいる。その女性は、今や、白峰の栃餅しんさ本舗の女主人。

このPWの行き帰りの2度、この女性を45年ぶりに訪問。お互いにそれぞれの顔はわかったとのこと。積もる話もあろうが、山の行き帰りのわずかの時間での逢瀬だ。

今回の山行自体も楽しかっただろうが、この再会の方がより印象的な場面だろうな。

そんな劇的再会を演じた男の名は、黒崎史平。



翌朝も、南竜ケビン前で、二人の研究は続く

## ワンデリングで疲れた後は そうめんでお楽しみだ



全員、ワンデリングから帰った後は、合津さんに持ってきていただいた『そうめん』を料理。お腹を喜ばせた。

そこで、珍しい光景が見られた。

いつも働きの悪い9期の面々が働いている。そして8期の皆さんが食べることに専念してくれた。

9期もやればできる。いつもやる気がなく、さぼっているのだな。

